

令和2年度アクションプラン重点事項に対する評価

(1) 業務効率化と魅力向上

- ・富山県の歴史、文化、自然など、郷土の理解に役立つ資料を広く収集します。また、電子版行政資料の継続的収集・提供に努めます。
- ・高齢化社会、障害者サポートに対応するため、大活字版図書の継続的収集、点字資料の集約など、さまざまなサービス提供に努めます。また視覚障害者等用データ送信サービス(国立国会図書館)の提供に向けた環境整備を行います。
- ・小学校における英語教育の早期導入と教科化の支援を行うため、英語絵本や英語多読資料の収集を継続的に行い、県内図書館との連携した資料提供の充実に努めます。
- ・レファレンスサービスを充実し、利用者に満足してもらえる資料や情報を提供していきます。さらに、ビジネス情報や社会生活で必要な情報に手軽に接することができるよう、雑誌スポンサー制度を充実します。
- ・高度な図書館サービスを目指し、各種研修会への参加を通じて、図書館職員の資質の向上を図ります。また、実践的な研修の機会を提供して、県内図書館支援を強化します。
- ・アクションプランを毎年見直し、県立図書館の中長期のあり方を図書館内で検討します。

○富山県への理解を深めるための資料を、県内各機関から令和2年度は2,959冊(2月末)を収集した。今後とも出版情報を把握して、資料の網羅的な収集を心掛けていく。

平成29年度から県刊行物の行政資料デジタル公開サービスを行っており、電子版行政資料の収集・保存に引き続き努めている。(登録件数70件)

○大活字本は1,302冊(2月末)収集。新たに「触る絵本」を収集した。また、令和2年度より視覚障害者等用データ送信サービス(国立国会図書館)の提供を開始し、利用者の利便性向上を図っている。

○「外国語に親しむ図書セット」(「世界の名作絵本セット」、「多読本セット」など)を県内公立図書館へ貸出を開始し、企画展示や小学校等への利用を呼びかけた。

○レファレンスサービスに不可欠な参考図書や基本図書の充実に努めた。また、レファレンスサービスにおいては、専門的で複雑な調査も含め5,649件を処理した(2月末)。なお、令和2年度のスポンサー雑誌は31社、38誌であった。(令和元年度:34社、39誌)

○全国図書館大会や東海北陸地区図書館地区別研修等が新型コロナウイルス感染症流行拡大防止対策によりオンライン開催へ変更となったものの、職員は研修に積極的に参加し、館内の職員に伝達講習や、収集した知識や情報の共有化を図った。

○安心して利用していただけるよう、新型コロナウイルス感染症の対策に努めた。

(2) 地域情報発信と情報化

- ・地域研究やふるさと教育を推進するため、富山県に関する企画展示を定期的に行います(今年度は「県立図書館80周年」を実施)。また、それらに関する文献リストやパスファインダーを作成し、県民に提供します。

*パスファインダーとは、あるテーマに関する資料や情報を探するための手段を紹介するもの。

- ・広く県民に情報発信するため、SNS(Twitterなど)を活用した広報を推進します。
- ・郷土に関するレファレンスデータを蓄積し、地域情報の共有化を図ります。
- ・図書館見学ツアーや図書館活用セミナーなどを実施し、図書館利用の普及啓発を行います。
- ・情報プラザの機能充実、調査研究環境の維持、サービスの向上を図ります。

○企画展示(年度当初の臨時休館後の5月より開始)では、子どもの読書週間企画展示「読んでみよ

う!世界の国々を知る本」や、「ラフカディオ・ハーン 生誕 170 年」などを実施した。また当館開館 80 周年を記念し、そのあゆみを資料や写真で振り返るとともに、図書館の資料保存を考える映像の上映会や館内書庫見学等を行った。いずれの展示も文献リストの作成や過去のリストの紹介により、関連図書の貸出促進につなげた。(展示関連図書貸出数: 912 冊)

- 地域情報発信ホームページ「まいぷれ」を活用した広報のアクセス件数は、5,921 件であった。また、Twitter による利用案内、企画展示等の行事案内、特設文庫の紹介、館報の記事紹介等、随時情報発信に努めた。ツイート数 1,560 (通算 5,386)、フォロワー数 906 であった(2月末)。
- 歴史的事実の確認など、郷土に関するレファレンスデータの蓄積に努めた。今後は、蓄積したデータの活用を図り、さらなるサービスの向上に努める必要がある。
- 新型コロナの影響で、図書館見学者数は大幅に減少した。資料を実際に見て、触れることで県立図書館の機能や書庫の状況を理解してもらうことはもちろんだが、非来館型の紹介方法についても今後検討が必要である。また、書庫に所蔵されている図書の利用や、レファレンスサービスをはじめ各種サービスの活用を利用者に促すなど、図書館利用の幅を広げる取り組みも必要である。
- 情報プラザで、視覚障害者等用データ送信サービスを提供し、幅広く利用者の読書活動をサポートする環境を整えた。
- 郷土博物館や立山博物館などに当館資料の特別貸出(15 件 65 点)を行い、郷土資料の活用を図った。また、郷土研究者やメディア等から郷土資料の掲載許可申請を受け付け(56 件 229 点)、調査研究機関として地域情報発信に努めた。

(3) 学校教育への支援、関係機関等との連携とネットワークの構築

- ・高志の国文学館での図書受渡サービスを継続し、利用者の利便性向上を目指します。
- ・ふるさととやま 100 冊の本をはじめとして、県立学校等図書館への団体貸出を推進します。
- ・公共図書館間及び高等教育機関とのいっそうの連携を強化し、遠隔地利用者の利便性向上や広域的な相互貸借の充実を図ります。
- ・大学図書館と連携して「富山ビギナー講座」などに協力し、図書館の魅力を発信します。
- ・県議会図書室と連携し、行政機関が求める資料や情報の提供に努めます。
- ・講演会や企画展示・雑誌スポンサー制度等を通じて、関係機関や企業との連携を図ります。
- ・図書館見学・14 歳の挑戦・図書館実習等を受け入れ、図書館における学びを支援します。

- 高志の国文学館での受取返却件数は、36 件 181 冊。今後も高志の国文学館での受取返却サービスの周知に努める必要がある。
- 県内高校等の団体貸出登録は学校数が 39 校と 3 校増え、貸出数は 213 冊であった。また、令和 2 年度は「県内高校図書館の活動紹介」と題し高校 8 校を 2 期に分け、その活動内容を写真や実物(ポップ等)で紹介する企画展示を行った。展示を機に意見交換等の機会も増えており、今後も同企画を継続するとともに、学校との連携した取組を進めていきたい。
- 富山ビギナー講座は、新型コロナ対応で大学が休校となり、中止されたが、富山大学附属図書館(中央図書館・医薬学図書館・芸術文化図書館)との連携は今後もさまざまな面で継続したい。
- 議会図書室を通じた図書の受取返却は 7 件 17 冊であった。今後とも議会図書室を通じた受取返却サービスの周知に努め、行政機関に役立つ図書館情報を発信する必要がある。
- 行政機関と連携した企画展示を実施した(がん征圧月間関連)。
- 雑誌スポンサー 31 社から 38 誌の提供を受け、配架することができた。今後は、スポンサー企業など経済界をはじめ様々な分野との連携を図る必要がある。
- 大学生の職場体験学習(インターンシップ)2 名を受け入れた。今後とも、図書館における実習等に積極的に協力していく必要がある。 ※中学生の 14 歳の挑戦は新型コロナへの対応で中止。